

平成30年度 第7回東京都サービス管理責任者等研修検討会 議事録【要旨】

日時 平成30年10月11日（木曜日） 10時から12時まで

会場 東京都心身障害者福祉センター 12階研修室

出席者 吉川委員長、奥秋副委員長、秋谷副委員長、宮田副委員長、浅野委員、三瓶委員、相良委員、深澤委員、会田委員、久保委員、山本委員、鈴木委員、橋爪委員、清水委員、平田委員、葛飾区子ども発達センター藤栄氏、東京都福祉保健局障害者施策推進部 川尻課長代理
17名出席

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長森下 他6名

傍聴者 8名

1 開会

吉川委員長	・開会宣言
事務局	・東京都心身障害者福祉センター地域支援課長挨拶 ・出席状況報告 ・資料確認 次第 資料1 平成30年度国研修受講者一覧 資料2 平成30年度国研修資料抜粋 資料3 平成30年度国研修 受講報告 資料4 基礎研修マニュアルのモト 資料5 指導者養成研修検討チーム 報告書 資料6 平成30年度東京都サービス管理責任者等研修演習指導者養成研修実施案内 ・本日は全体会のため、配布資料や議事録要旨をホームページにて公開する。 また、本日は傍聴者がいることをご了解いただきたい。
吉川委員長	・本日は、国研修の報告、作業チームからの報告の後、チームに分かれて年度末に向けての作業の到達点の確認及び役割分担を話し合っていたきたい。

2 平成30年度サービス管理責任者等指導者養成研修（以下「国研修」という。）受講報告

吉川委員長	・ここからは、国研修の報告に進む。 ・本日は検討会委員の他に、国研修に参加していただいた、葛飾区子ども発達センターの藤栄さんと、東京都福祉保健局障害者施策推進部の川尻さんにもご出席いただいた。 ・まず、事務局より、国研修の概要について説明願いたい。
-------	--

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この研修は、各都道府県で行われるサビ管・児発管研修の内容について伝えていくために毎年実施されている。 ・今年度は、主に来年度から大きく変わる研修の説明と、基礎研修の伝達研修が内容となっていた。 ・東京都からは資料1にある7名が参加した。 ・資料2が研修会で配布された資料の制度説明の部分を抜粋したものになる。後ほどお読みいただきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・国研修全体について、浅野委員より報告願いたい。
浅野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書には、伝達されたこととして改定の内容と研修全体の流れ、また、研修の冊子にどのような内容が掲載されていたかをまとめている。 ・特に演習を構成するにあたって必要な事項だと思ったことについては、報告書の4ページの内容に★印を付けたものになる。 ・都研修に関連付けて考えたこととしては、国研修の演習では非常に簡単な事例を使っていると感じたこと。 ・これまでの演習では、少し困難な事例についてどのように取り組むかを皆で深く考えていくスタイルだったと思うが、今回の国研修では全般的に、基礎研修で学ぶ人たちのために、個別支援計画はどういった手順で作成され、サービスの提供を行っていくのか、そのプロセスを理解してもらおうという意図が非常に強く印象に残った。 ・手順が多いため事例について考える時間が全くなかった。段取りを体験するために事例を使うというようなイメージでとらえても良いかもしれない。 ・事例の読み込みに非常に時間がかかるため、読み込みの時間削減についての検討は重要と思う。 ・受講者がサービス等利用計画を知らないことも考えられるため、知っていて当たり前と思っていることの洗い出しをしていかなければならない。知っておいてくださいといった宿題方式にするのか、または、用語集で知らせるのかなどを検討するか。 ・ロールプレイは、実際に体験したことのない人が参加することが十分に考えられるため、これまでは受講者にやってもらっていたが、講師がやって見せていくスタイルもあるのではないか。 ・国研修では手順が多く、ファシリテーターがいないと、求められている内容が不明瞭な点があった。ワークの内容の明確化が必須で、さらに落とし込みが必要と思われる。 ・ロールプレイを行うとロールプレイの内容に引っ張られてしまうため、次の成果物作成にあたり、ロールプレイの内容を反映するのか、または、添付されていた会議録を反映するのか、先に決めておいた方がよい。 ・ロールプレイには席順の配慮についてのアナウンスが必要 ・個別支援計画のフォーマットには、到達目標などは記入しておき、書き方に迷

	<p>う時間を少しでも短縮した方が良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体にやるが多いため、ブツ切れ感があり対応策の検討が必要と感じた。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・更新研修について、秋谷委員より報告願いたい。
秋谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・更新研修の内容についてほとんど触れられていなかったため、まず、基礎研チームに伝えたいこととして報告する。 ・講義はサビ管の見直しについての説明があった。詳しくは資料2を見てほしい。 ・サービス提供の基本的な考え方というところで、本人主体、ニーズを明らかにする、問題解決にストレングスを役立てる事を確認すること。 ・サービス提供事業所の利用者主体のアセスメントについては、各分野の講師から説明があった。 ・居住支援におけるアセスメントの岩上講師の話が良かった。「生活場面と一緒に楽しめる」視点が印象的だった。 ・分野別のアセスメントの違いを改めて感じた。特に、未発達・障害が未確定である児童では「ストレングス」は馴染まない。研修は、全分野が対象となるため、アセスメントの難しさを認識した。 ・連携については、ニーズを充足するために効果を発揮していく視点と、チームビルディングの視点について紹介があった。 ・演習については、事例の読み込みや理解より、支援の流れや枠組みを理解することが重点だった。 ・演習の中ではかなりロールプレイを行った。役割を全員に体感してもらい、その中でサビ管の役割の重要性を改めて認識した。 <ul style="list-style-type: none"> ・更新研修は、障害者施策の最新の動向は外せない。また、自己検証、スーパービジョンを盛り込む内容となっており、時間としては6時間程度との説明があった。 ・ただし、スーパービジョンについては、実践研修に要素を盛り込み、研修自体は専門コース別研修へ外出しにするという意見もあったが、具体的な内容については示されなかった。 ・現行の研修を受講したサビ管について、5年以内に更新研修を受講しなければならないが、最終年度に受講者が集中するため、サビ管研修を受講した年度で区切るやり方もあると意見があった。それでは縛りを作ってしまうのではないかと思った。 ・都研修と関連付けて考えたこととして、最新の動向については行政の方に講義を依頼した方が良いのではないか。また、自己検証については事例を持ち寄ることや、アセスメントを深めるなら野中式やグループスーパービジョン、「ゆらぎ」を扱う事例検討などが良いかもしれない。 ・講師から、演習にはグループに1名のファシリテーターが必要ではとの意見もあった。東京都としては難しいとの意見もあるが、複数分野にまたがる研修の

	<p>ため円滑に演習を進める工夫が必要ではないかと感じた。</p>
会田委員	<ul style="list-style-type: none"> 更新研修の内容自体が示されていないので、自己検証という観点から考えた時に、皆さんがやっているような事例検討が良いのではないかと思った。ただ、事例検討をするにも、事例を深めることが目的なのか、それともアセスメントはある程度されていて支援方針をアイデアとして出していくのか、支援者が困っていることや、対利用者へのポジティブ・ネガティブな気持ちをどう取り扱うかは、スーパービジョンにも繋がるかと思った。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 研修運営について、川尻さんより報告願いたい。
川尻氏	<ul style="list-style-type: none"> 告示改正について、相談支援専門員の研修は告示改正が遅れていて、今年度中に改正ができない可能性があると話があった。サビ管研修については今まで示されていたとおり今年度中に行う予定 基礎研修について、3月に示したものから時間数が短縮された。 実践研修については来年度以降国研修で示すということであった。 更新研修は基本的には13時間としているが、当面は6時間程度でも修了証を発行する。 専門コース別研修は、まだ検討中であり、31年度の改正には間に合わない。 配置時の取扱いの緩和については、基礎研修修了者は、既にサビ管が1人配置されていれば、2人目のサビ管として配置可能。個別支援計画の原案は作成が可能 経過措置については、現行のカリキュラムでの修了者は、業務に就いていない者でも35年度末までに更新研修を受講すれば良い取扱い。 来年度以降の新カリキュラムの受講者は、更新研修の受講時に一定の実務経験を満たしていないといけない。 基礎研修終了後に一定の実務経験を満たしていない人は、実践研修を受講できない取扱いとなる。 その他として、研修は分野統合の形になるが、従事する際には、サビ管になる人はサビ管の、児発管になる人は児発管の実務要件が満たされていなければならないということであった。 今回の国研修で詳細が伝達されたのは基礎研修のみであった。 東京都は今年度前半の検討会にて基礎研修の内容を考えていただいており、今回の国研修で示された変更点を東京都として作成中のプログラムと突き合わせ、不足の内容がないか確認する必要があると考える。 更新研修の伝達はなかったものの、専門官より告示を基に都道府県で実施が可能との発言があったため、告示や標準カリキュラム（案）を参考にしながら、31年度の実施に向けて内容を検討する必要がある。検討会の皆さんの力をお借りし、事業者のサービスの質を向上できるような研修になればと考えている。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 国研修の報告を受け、質問等あればご発言いただきたい。（質問なし）

	<ul style="list-style-type: none"> ・国研修の報告はここまでとする。
--	--

3 作業チーム報告

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・7月から8月にかけて基礎研修チームと指導者養成研修チームに分かれて検討してきた。まずは、奥秋委員から基礎研修チームの検討状況の報告を願いたい。
-------	--

<基礎研修チーム>

奥秋副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度国研修をベースに作ってきたので、今年度の研修報告を聞き、変わったところをどうしようかと思っているところ。 ・3回の打ち合わせの成果物が資料4の「基礎研修マニュアルのモト」になる。 ・制度にあるから個別支援計画を作成するというわけではなく、支援に必要なことから作っているという根本的なところを伝えられる内容にすることを基本として考えた。 ・そのために演習で外せないものを抽出し研修マニュアルのモトに落とし込んだ。 ・アセスメントは、検討の過程では、支援計画を作れることが目的のため各分野固有のものについては難しいのではないかとということで、資料提供だけとっていた。しかし、標準カリキュラムの時間数が示され、マニュアルのモトでは時間数が足りないと判明したので、この後の時間で再検討したい。 ・カリキュラムと事例について、研修の目的を果たせるよう肉付けをしていく予定
--------	--

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修チームの報告を受け、質問等あればご発言いただきたい。 (質問なし) ・次に、宮田委員より指導者養成研修チームの検討状況を報告願いたい。
-------	---

<指導者養成研修チーム>

宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・教室進行とグループワークのファシリテーターの確保と養成が大事 ・教室進行は、全体の進行と研修の重要なポイントを伝達する役割。ファシリテーターはグループのファシリテートをする役割で、最低でも2グループに1人いることが望ましい。 ・ファシリテーターを依頼した人は、指導者養成研修受講で技術の伝達→基礎研修ファシリテーター→実践研修ファシリテーター→国研修受講へとステップアップしていくのが良いのではないかと考えた。 ・かなりの人数のファシリテーターが必要となるが、サビ管経験を必須としてしまうと確保が難しい。サビ管経験のない人が各教室に一人いることは可能とするという意見が出ている。 ・募集の方法は、各自治体から複数名の推薦や、職能団体へも声をかけられると良いのではないかと、また、大手株式会社やサビ管人数の多い法人に声をかけて
--------	---

	<p>みるのも良いかもしれないという意見が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依頼方法は、実践研修終了後に受講者の中からピックアップし依頼したり、自治体へ推薦を依頼したり、職能団体などへ強制ではない形で協力を呼びかけたり、募集の告知をしてはどうか。 ・依頼内容は、ファシリテーターとして出すことで当日の事業所の職員が減ることになるため、団体に対してのメリットや、個人としては参加することの意義があると参加したいと思ってもらえるのではないか。 ・団体のメリットとしては、研修優先受講や、研修協力団体名をホームページへ掲載することによる宣伝効果、人材を補填する事業の活用などが考えられる。 ・ファシリテーターの役割は重要なため、研修の打合せは綿密に行う必要がある。教室進行はさらに研修の核となる部分を共有することが大切。研修が変わるため、反省会も重要となる。 ・指導者養成研修については、講師に話してほしい内容の提案をした。
--	---

4 年度末までの作業計画

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここからは、各チームに分かれて話し合う時間とする。 ・各チーム、今年度の到達目標が達成できるよう、目標の確認と今後のスケジュールや役割分担について話し合ってもらいたい。 ・藤栄さんは、更新研修チームに入ってもらい、川尻さんは全体の様子を見てサポートしていただきたい。 ・11時40分より各チーム3分程度で結果を報告いただきたい。
-------	--

(1) チームに分かれて検討

(2) 発表

<基礎研修チーム>

奥秋副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・国からカリキュラム案が出たため、事務局が時間数などのチェックを行い、チームで作ったマニュアルのモトで時間数が足りない部分について講義や演習の順番を入れ換える提案があり確認をしたところ、それで良いということになった。 ・事例については、マニュアルのモトを作成した際の各項目の担当者が、事例から拾えるような肉付けを提案し、まとめ役の橋爪さんに伝え、12月中には肉付けを終了した事例を完成させたい。
--------	--

<指導者養成研修チーム>

宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の話し合いは、ほぼ完了しているので、来年度について話し合いを行った。 ・ファシリテーターの確保が急務。人数が2倍必要なことや、研修の回数が増え
--------	--

	<p>るので、一人一人のファシリテーターの負担が少しでも軽減できるようになると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ研修のように、アセスメントや支援者会議を先にビデオで取って流すなど、ファシリテーターの負担軽減も含めて可能性があるなら実施したほうが良い。 ・今までの研修は9月頃に始まっていたため、年度が明けてからも少し時間があったが、6月からの研修となると、年度当初から打合せで集まらなければならず、かなりバタバタとする。同じ人が何度も事業所を離れて出ていくと負担感が強くなるため、軽減したいと思う。 ・ファシリテーターを集める方法が、今までは人伝えだったがそれでやれる人数ではないので、広く声をかける仕組みを作り、その上で選定していくことも必要
--	--

<更新研修チーム>

秋谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・更新研修は今日から本格的に話し合っていくことになる。 ・国研修では具体的なことが出ていないが、東京都としては来年度から更新研修をやりたいということなので、まずは、6時間の中で実施していく。 ・国のモデルにある、障害福祉の動向の講義1時間プラス自己検証に絞ったところを6時間の中で組み立てられればと考えている。 ・ただ、自己検証はとても難しい。国のモデルの中でも事業所としての自己検証とサビ管・児発管としての自己検証ということで、国研修でも言われていたチームビルディングなど内容を絞った形でできると良いかと思うが、専門家の講義はどのような専門家が良いかというところで討議は終わった。プラス演習ができれば良いと思っている。 ・機関連携については、分野によって連携する機関が異なるため、分野別で実施した方が良いのか、それとも全分野で行う方が良いのかといった討議もあった。 ・ただ、サビ管としては、構築していく役割があるので、そこに絞って討議をした。課題を出し合いながら、残り2回のチーム検討で、東京モデルの6時間を作れると良いと考えている。
--------	---

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・以上の報告について質問等あればご発言いただきたい。 (質問なし) ・チーム報告について東京都から説明や意見を願いたい。
-------	---

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供になるが、来年度以降は研修が2種類増え、31年度については基礎研修と更新研修を実施することになる。基礎研修については、現行の研修が1450人で実施しているので同様の規模での実施は必要かと考えている。また、更新研修については、昨年度までのサビ管・児発管研修の修了者が1万人を超えているが、国からは経過措置期間の5年間で研修を受けてほしいとあり、規模を想像していただきたい。 ・ 研修のやり方については、今は1つの部屋に最大6グループで演習をしているが、8グループや10グループなど大きな部屋で実施することも考えていくことになる。そのようなイメージも持って更新研修チームの皆さんには検討を進めていただきたい。 ・ 研修スケジュールについては、現時点では更新研修を年度前半に実施し、基礎研修を年度後半で実施することを想定している。 ・ 基礎研修と更新研修については、標準カリキュラム（案）が示されているので、それに添って作っていただくことになると思う。 ・ 指導者養成研修チームからは、具体的に講師をどうやって増やしていくのかについてのアイデアをいただいた。 ・ 研修用のホームページを新たに立ち上げ研修協力者の法人の名称をあげることや個人の名前をあげるといったことは面白いアイデアだと思った。 ・ 更新研修を優先的に受講できる個人のメリットがあると良いということがあったが、国研修の際に専門官が、ファシリテーターを兼ねて受講すれば、修了証書を出すのも良いのでは、と発言されていたので、アイデアとして取り入れていけると良いと思った。 ・ 講師協力の呼びかけについては、国から正式な告示が示されたところで具体的に動いていきたいと思っている。 ・ 講師やファシリテーターを担ってくださる方に過重にお願いするのではなく、研修を受講する人と一緒に研修を作っていく意識を持っていただけるように、メッセージとして発信していきたい。東京都という地域で、サービス提供について考える仲間として研修の時間を過ごしてもらい、繋がりをもってもらうといった色合いでできるように準備をしていきたい。
-----	--

5 事務連絡と閉会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ この後はチームに分かれての検討会になり、第8回と9回は更新研修チームの作業部会、10回は全体会となる。 ・ 日時は、第8回12月10日（月曜日）、第9回1月17日（木曜日）、いずれも、時間は15時から17時、会場は飯田橋の心障センター12階研修室で行う。 ・ 第10回検討会は全体会で、日程調整をさせていただき、3月11日（月曜日）となった。時間は15時から17時まで、会場は飯田橋の心障センター研修室
-----	---

	<p>で行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・第8回から10回については開催の案内をお届けしていないため、急ぎ手続きを行い、ご連絡させていただきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none">・次回集まるのは3月だが、それまで各グループのチーム作業をよろしくお願ひしたい。